

■ : 回答完了 □ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分		No.	開催回		日付	コメント 内容	回答	備考
			開催回	日付				
海域 地質・地質構造	評価の流れ	50	第1144回	2023.5.12	文献調査を個別断層の段階と連動評価の前段で分けて行っているが、文献調査は最初の段階で一括して整理し、その結果を踏まえ、個別断層の評価及び連動の評価を行うこと。			
海域 地質・地質構造	追加の連動評価	51	第1144回	2023.5.12	追加の連動評価を行う断層の組合せの選定にあたっては、松田(1990)のルールに基づき離隔距離が5km以内の断層に限定しているが、5kmを超えるものも選定の対象に含めて評価すること。			
海域 地質・地質構造	追加の連動評価	52	第1144回	2023.5.12	追加の連動評価にあたっては、国の行った評価結果を踏まえた評価を行っているが、画一的な評価で一律に評価することは難しいため、個別断層毎にデータを考慮した上で総合的な評価を行うこと。			
海域 地質・地質構造	追加の連動評価	53	第1144回	2023.5.12	敷地近傍断層の福浦断層と兜岩冲断層についても、5km以内で近接して分布することから、追加の連動評価の検討対象として選定すること。			
海域 地質・地質構造	海士岬冲断層帯と羽咋冲東撓曲	54	第1144回	2023.5.12	海士岬冲断層帯と羽咋冲東撓曲の連動評価については、断層面の傾斜方向が逆として連動を否定しているが、地表の痕跡だけにとらわれず、深部のデータを確認した上で、連動の可能性について評価すること。			
海域 地質・地質構造	笹波冲断層帯(東部)と海士岬冲断層帯	55	第1144回	2023.5.12	笹波冲断層帯(東部)と海士岬冲断層帯の連動評価については、両断層間の詳細な音波探査記録、変位量分布からの検討も追加して、連動の可能性について評価すること。			
海域 地質・地質構造	笹波冲断層帯(全長)と能登半島北部沿岸域断層帯	56	第1144回	2023.5.12	笹波冲断層帯(全長)と能登半島北部沿岸域断層帯の連動評価については、猿山沖セグメントの南西端付近の屈曲部を震源断層とは評価していないが、屈曲部はB1層に変位・変形が認められることから、この屈曲部も震源断層に含めた上で、連動の可能性について評価すること。			
海域 地質・地質構造	重力異常分布	57	第1144回	2023.5.12	各断層の連動評価に用いている重力異常分布図について、解析精度を確認できるよう、重力測定点の位置を図示すること。			
海域 地質・地質構造	笹波冲断層帯(西部)	58	第1144回	2023.5.12	笹波冲断層帯(西部)の南西端の評価結果については、No.101.5測線とNo.8測線の間を抜けて連続していかないことを示すデータを当該断層のまとめ頁に追加し、整理すること。			
海域 地質・地質構造	小断層群	59	第1144回	2023.5.12	小断層群はB1層に変位、変形を与える断層であるが、震源として考慮する活断層ではないと評価した根拠をしっかりと説明すること。			
海域 地質・地質構造	石川県能登地方の群発地震	60	第1144回	2023.5.12	2023年5月5日に石川県能登地方で発生したM6.5の地震について、引き続き最新の知見を収集し、資料に反映すること。			